

高知県の地震

目 次

高知県の地震活動	
震央分布図及び断面図	1
地震概況	1
高知県で震度 1 以上を観測した地震と各地の震度	2
高知県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図	2
地震一口メモ	
地震計と震度計について	3

※「高知県の地震」は月 1 回発行するもので、高知県及びその周辺の地震活動状況をお知らせすると共に、適宜、社会的に関心の高い地震について解説します。また、「地震一口メモ」で地震防災知識等の普及に努め、皆様のお役に立つことを目的としています。

※この資料の震源要素及び震度データは、再調査された後に修正されることがあります。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米
国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

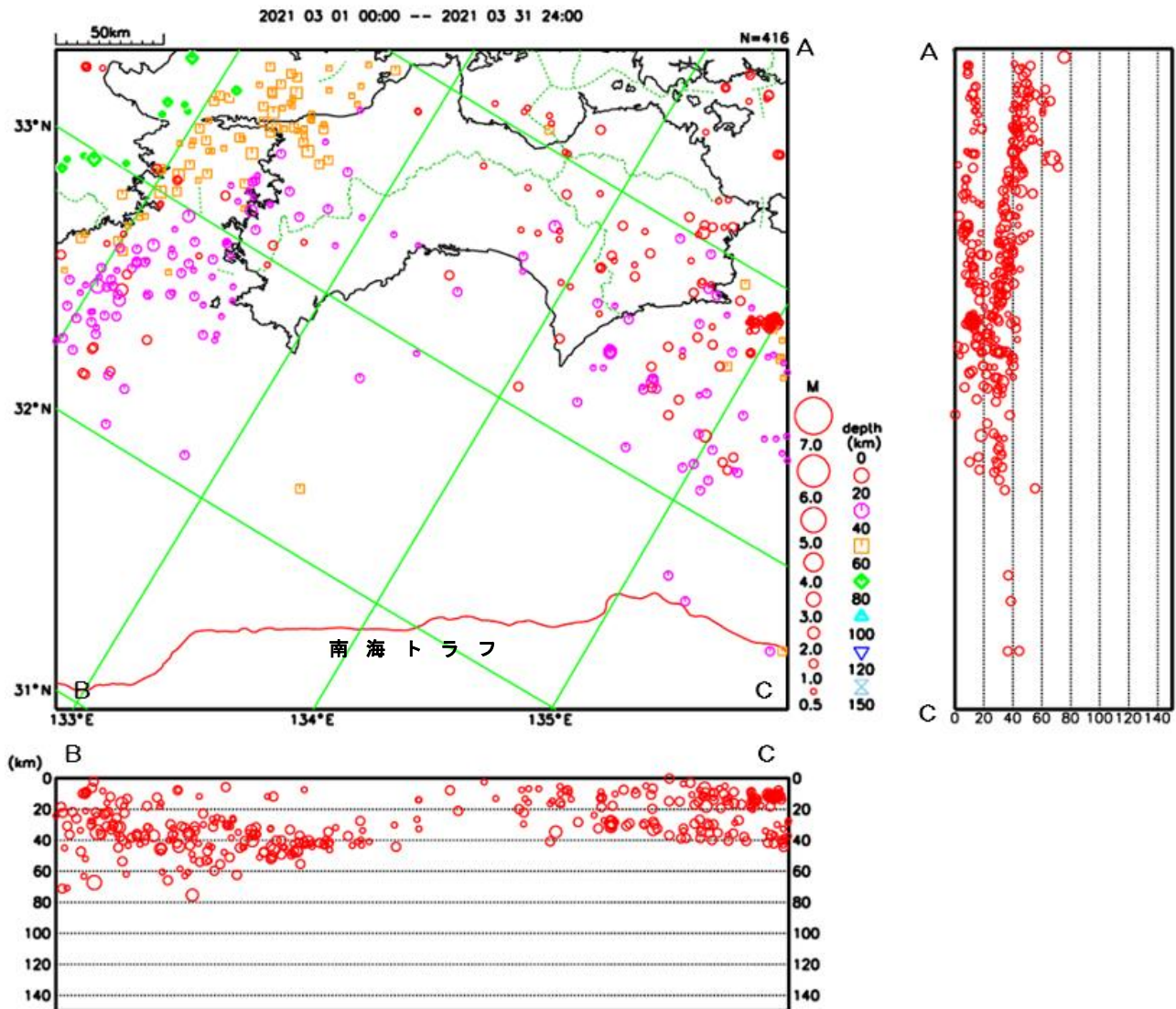
2021年(令和3年)3月

高 知 地 方 気 象 台

高知県の地震活動

「震央分布図及び断面図」

(2021年3月1日～3月31日)



震央分布図では、地震の規模を示すマグニチュード(M)はシンボルの大きさで表しています。震源の深さはシンボルの形と色を深さに応じて変えて表しています。右上の「N」は図中に表示しているシンボルの数(地震の回数)、右の「depth」は地震の深さの凡例を示しています。

断面図(右図及び下図)は、震央分布図範囲内の地震の北北西-南南東(A-C)方向断面図(右)と西南西-東北東(B-C)方向断面図(下)を表し、それぞれの地震の震源の垂直分布を表しています。

「地震概況」

2021年(令和3年)3月に、高知県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震は2回でした(前月は2回)。

14日09時22分 熊本県熊本地方の地震(深さ11km、M4.4、震央分布図範囲外①)により、宿毛市で震度1を観測しました。また、熊本県で震度4を観測したほか、九州地方で震度3～1を観測しました。

15日00時25分 和歌山県北部の地震(深さ4km、M4.6、震央分布図範囲外②)により、安芸市と東洋町で震度1を観測しました。また、和歌山県湯浅町で震度5弱を観測したほか、東海・近畿・中国・四国地方にかけて震度4～1を観測しました。

注) 地震概況にある数字は、「震央分布図」、「地震の表」及び「震度分布図」の番号に対応しています。

「高知県で震度1以上を観測した地震と各地の震度」

2021年3月

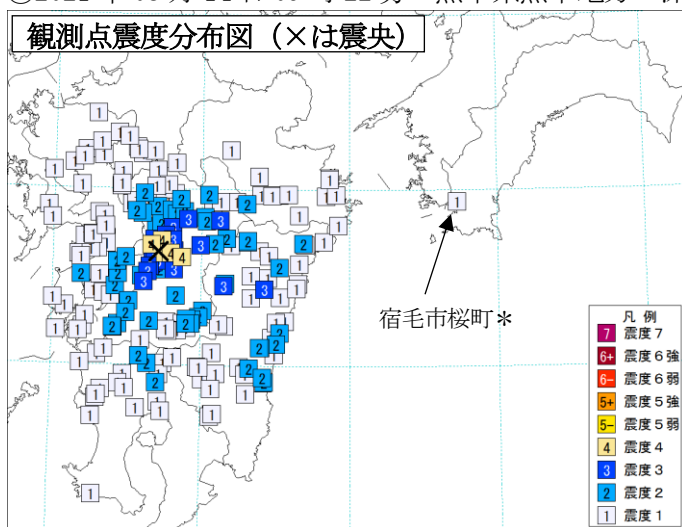
発震時刻 (年月日時分) 各地の震度 (高知県内のみ掲載)	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
① 2021年03月14日09時22分 高知県 震度 1: 宿毛市桜町*	熊本県熊本地方	32° 38.6' N	130° 42.6' E	11km	M4.4
② 2021年03月15日00時25分 高知県 震度 1: 安芸市西浜, 東洋町生見*	和歌山県北部	34° 01.7' N	135° 14.8' E	4km	M4.6

注) *印は、気象庁以外 (高知県または国立研究開発法人防災科学技術研究所) の震度観測点です。

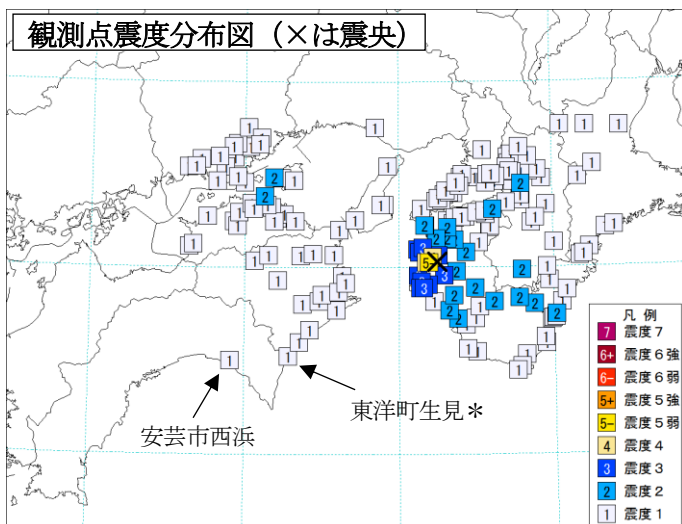
「高知県で震度1以上を観測した地震の震度分布図」

2021年3月

①2021年03月14日09時22分 熊本県熊本地方 深さ 11km M4.4



②2021年03月15日00時25分 和歌山県北部 深さ 4km M4.6



注) 観測点震度分布図には、県内で最も大きい震度を観測した観測点が少ない場合、観測点名を記載しています。観測点名の*印は、気象庁以外 (高知県または国立研究開発法人防災科学技術研究所) の震度観測点です。

「地震一口メモ」

地震計と震度計について

1. 地震計

地震計とは、地震によって発生した地震波を正確に記録するための観測測器です。地震計により得られたデータは、震源（地震の発生場所）や規模（マグニチュード）の決定に利用され、津波による被害が予想される場合には、ただちに津波警報等を発表します。

気象庁では令和3年3月現在、全国に約280箇所を設置した地震計のデータをリアルタイムで収集し、24時間体制で地震活動を監視しています（右図：近畿・中国・四国の他機関の観測点を含む地震観測網）。

なお、地震の揺れには微弱な揺れから非常に大きな揺れまであり、周期も短周期から長周期までと広範囲にわたることから、すべての揺れを捉えられる地震計はありません。したがって、場所により目的に応じた地震計が設置されています。

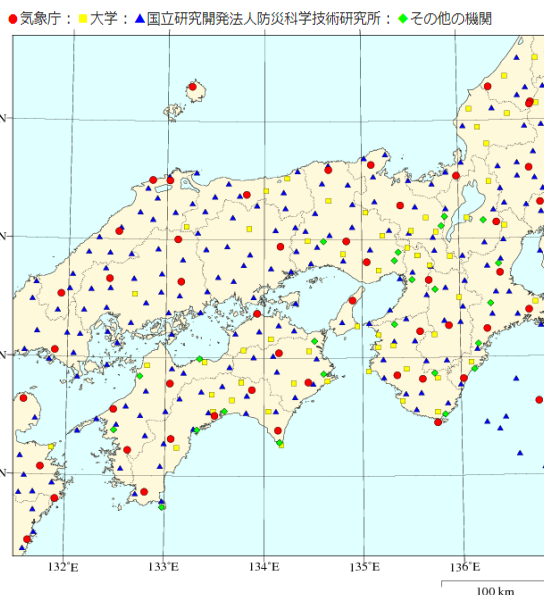


図 近畿・中国・四国地方の地震観測網

●速度型地震計

周期の短い微小な地震の観測に適しています。震源や規模の推定に用いられます。

●加速度型地震計

比較的規模の大きい地震の観測に適しています。震度計として用いられるほか、緊急地震速報の発表に用いられます。

●広帯域強震計

巨大地震の観測に適しています。規模の推定や地震の発震機構（メカニズム）の解析に用いられます。

2. 震度計

震度計とは、その場所における地面の揺れの強さを計測する装置です。震度計により得られた震度は、気象庁の地震情報や、地方公共団体における地震時の初動対応などに利用されます。

気象庁では、明治17（1884）年以来、120年以上にわたって震度観測を実施しています。震度観測は、観測開始以来、職員による体感で行われてきましたが、観測を客観的に行いその成果を迅速に発表するために、平成3（1991）年に、世界に先駆けて震度を観測する「震度計」を開発しました。平成8（1996）年4月からは全面的に震度計で行うこととし、体感による観測を廃止しました。平成8年10月からは、現在の震度0～7までの10段階（震度5及び震度6はそれぞれ「弱」と「強」に分割）で震度を発表しています。

震度計の導入により地震発生から震度速報の発表までに要する時間が、10分以上から1分半程度まで大幅に短縮されました。震度計は、地方公共団体における地震時の防災対応に必要な機器として展開されるなど急速に普及し、令和3年3月現在、気象庁では地方公共団体・国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点を含め、4377地点の震度データを一元的に収集し、地震情報に活用しています。

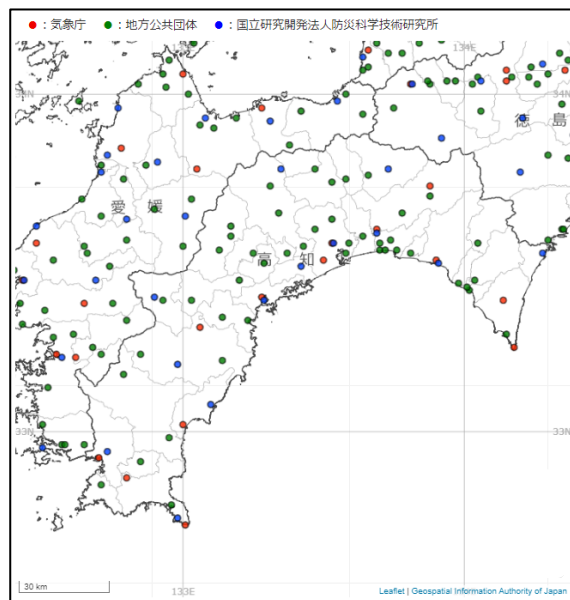


図 高知県及び周辺の震度観測点

地震・津波の観測監視体制について

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/monitor/index.html>